

市政報告



ごみ有料化が決まる

と市長幹事党民社
3月議会は、「ごみ有料化」と「2007年度予算」「北市民病院健全化計画」などが争点として審議が行われました。

政治市長又
さて、「ごみ有料化」が決まった翌日は、「決まったなあ」「一票差か」というのが朝のあいさつであったそうです。いかに関心が高かったかわかります。

の立候補者
議会前には三つの団体からも有料化中止と撤回を求める陳情、地域住民へ説明を求める請願書が出されてきました。

の参院選
社会クラブは、3回出された広報の内容がインチキであること、また説明会で

の質問に対して「それでは福祉を削る以外ない」という回答は脅かしであることなどを追及しました。

結果は反対11（社会・自由・新政クラブ・共産・公明党）、賛成は12（平成クラブ）で可決されました。

一体校へ一極集中

「2007年度予算」は、414億円、内訳は一般会計が過去最大の212億円、4特別会計158億円、水道事業11億円、病院事業会計32億円となっています。

財源のうち、市民税は実質増えず、さらに地方交付税も前年度に比べて7%もマイナスになっています。

このため市債（借金）の発行34億円と基金（貯金）取り崩し6億円、さらに各種団体への補助金カット9千万円によってまかなわれています。

特徴は、建設計画に計上している生活道路の改良などは凍結されたことと、他の市では入院に限っていた小学生の医療費の助成対象を通院にまで拡大するなど、厳しい財政の中でも住民サービスの向上が図られています。府中市の場合はいぜん小学校へあがる前までのまま。さらにごみ有料化に見られるように市民負担の引き上げが行なわれたことです。

なお、社会クラブは個人負担の見直しを求め「障害者自立支援法の抜本的な改正を求める」意見書を提出しましたが平成クラブと公明党の反対で否決されました。また、4回連続して戸成議長不信任動議が提案されました。

発行者 小川敏男
小水田豊
府中市出口町1073
Tel 43-4616

うそとごまかしのごみ有料化

多くの市民の反対の声をよそにごみ有料化が決まってしまいました。私たち社会クラブは他の会派とも連携し、今議会での決定を阻止しようと行動しましたが、結果は12対11の1票差で可決となりました。今後の市政を占う問題でもあり引き続ききちんと監視をしていきます。

「ごみ有料化の議論を通じて、伊藤市長の政治姿勢が、ますますはつきり見えてきました。一部の声しかきかない側近政治であること。反対意見に対する露骨ないやがらせを平気でおこなう権力者であること。自分が有料化案を作った提案しておきながら決めるのは議員だと言つてのける官僚特有の無責任さ。黒を白と叫ぶ

くるめるその場しのぎのごまかしなどです。こんな市長は府中にいらぬ。はやく千葉にお引取りいただきたいと強くおもった次第です。

まず、有料化ありき

市長は「いまなぜごみ有料化なのか」という議員の質問に対し次のように答弁しました。

「①有料化の流れが数年前からあること。②上下町との合併後3年間を経過し一体となった府中市に有料化

という政策を導入する機会であること。③財政が悪化していること。こうしたことを総合的に判断し、有料化は今しかない。」

「このようにごみの減量化が目的ではなく、有料化そのものが目的だと市長自らがはつきり発言しています。ごみ減量化のためという提案理由はごまかしです。」

市長答弁のごまかし

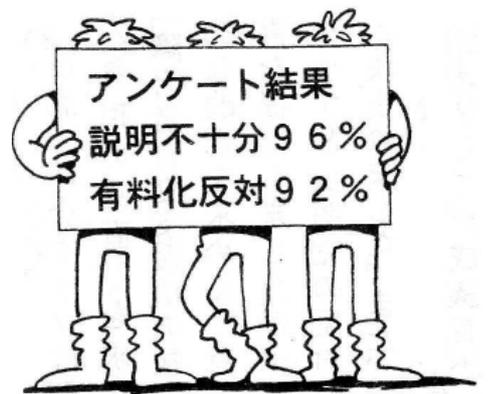
平成17年度のごみ処理経費5億6千万円に關しても市長の答弁はごまかしです。9月議会では、5億6千万のなかにはRDF施設の防火対策工事など交換部品、補修部品、3年に一回とか

5年に一回とか交換するものが1億2700万円ほどある。つまり経常的な支出としては4億3300万円だ」と答えました。一方、今議会では、17年度で1年間フルに自然体で経費を使つてやったその額が5億6千万だ」と答弁しています。

一方では4億3300万円だ、また一方では5億6千万円だと答弁する。その矛盾を指摘すると「そこはニュアンスの違いで誤解を与えたかも知れませんが。もしも誤解を与えたとしたら訂正をさせていただきます」と平気で居直ります。まことにその場しのぎの答弁です。

資料のごまかし

広報2月1日号にはごみ排出量の推移が載っております。この数字は事業系ごみを入れたもので、あたかも17年度にごみの量が急増しているかのような印象を



あたえています。しかし、家庭系ごみは16年度から17年度にかけては減っているのです。

また、広島県内のごみ有料化をしていない市の数を府中市を含めて4市(福山・尾道・竹原市)しかないと書いていますが、実際には、広島市など9市が無料です。なにがなんでも有料化ありきで数字さえも恣意的なものを使うごまかしぶりです。

ごみ減量の具体策なし

厚生委員会でも市長はこのように答弁しました。「有料化による啓発という



ものをまず浸透させて、それからさらに進んだ分類、資源化というものを導入するのが、でき得る唯一の順番だ。」

つまり有料化したあとで、さらなる分別を行なうとっているのです。順序が逆であります。有料化の前にごみ減量のためのさらなる分別化など具体策を示すべきでしょう。いかに具体策がないかを示しています。

予算根拠の答弁なし

また、今年度予算でごみ処理協力金として1235万5千円を計上しています。実施は10月からです。また、1年間はごみ袋の値段を2分の1にしているのので、通常の年の協力金は4倍した4942万円です。



たまんない!

この数字は当初の市の試算額3800万円と合いません。また、この4942万円の積算根拠を何度聞いても答弁がありませんでした。さらに、4942万円市民

負担をしても、ごみ処理経費の削減は1000万円程度しかみこまれないこと。ごみ減量化新聞の発行などあらたな事業に1009万円かかることなど経費削減

効果があるとは思えません。このようにいまだ論議の必要な課題がたくさん残っており、今議会での決定は時期尚早です。市長の提案にはなんでも賛成する与党・平成クラブの責任はきわめて重大といわざるを得ません。

議会は行政のチェックと政策順位を決めるバランスが必要といわれる。

北海道夕張市の財政破綻では『議会は何をしていたのか』、『補助金によるハコモノ建設の借金と、維持費・施設の投資対効果などは誰も気がつかなかったのか』と厳しく問われている。

お金は借りれば返さなければならぬ、建物は建てれば維持しなければならぬのは誰でも知っている。

しかし、現実に財政再建団体になるまで手の打ちようが無かったといわれる。

本当にそうだろうか。

洋泉社刊の『自治体連続破綻の時代』（埼玉県和光市議会議員・松本武洋著）によると「ごく最近まで、あるいは今も地方議会の役割

は『同意機関』で、結局、賛成要員の与党議員が過半数を占める中で首長・行政は実質的にノーチェックでやりたいことができる。」と辛辣に全国の多くの自治体の現状を

円も基本料金が必要な市長車の人工衛星を利用したパソコンシステム等を放置しておいて、『金がないので、ごみ有料化』、『金がないのはこつちだ』と市民の多くは怒った。

視点

議会と議員の責務

分析している。

今回の3月議会ではごみ有料化問題で少し山が動きかけた。

校舎があるのに40数億円もかけて新校舎の建設、1ヶ月に数十万

「教育現場に何が必要か」、「市の財政にはどういう改革が必要か」などの問題意識と「市民が今一番に求めているものは何なのか」政策選択の優先順位を議会はチェックしなくてはならない。

また、長期計画の進行状況を追及し施策間のバランスを議員が考えなくては誰が考えるのか。

結局のところ、議会と議員は『首長への同意機関』であってはならない。健全なチェック・アンド・バランスの存在となるべきだ。

そうでなければ府中市は第二の夕張市になってしまう。

府中市が「偽装請負」

保育所では保育士の人員が少ないため市が臨時職員を雇用していました。ところが、2006（平成18）年度からは臨時職員の仕事は、民間の会社に業務委託されました。保育所現場は「直接、委託職員に指示出来ない業務委託契約では仕事にならない」と指摘していました。案の定、府中市は偽装請負の疑いで広島労働局の調査を受けることになりました。市当局は「偽装請負とは認識していない」「業者が勤務を電話で指示しており、法令を遵守して実施してきた」と強弁しましたが、3月24日の新聞で、広島労働局は「府中市と受託している東京の会社に対し『形式上請負としているが、労働者派遣事業に当たる』として労働者派遣法に基づき是正指導した」と報道されています。「つまり、現

場の職員が指示していたことを認めたと」といふことです。

市民に法令遵守を求める府中市行政が法を守っていなかったのですから罪は重いと云えます。法令無視・説明責任放棄が府中市の姿勢といえます。

どうなる府中北市民病院

府中北市民病院の健全化計画は昨年9月にその骨子が示され、今年に入り3月議会前に要約版が示されました。その内容である病院の将来像を3月議会で市民生活部長が次のように述べました。

「府中北市民

病院は合併後は地理的な条件から北部医療圏の国保診療病院

という位置づけに変わっている。しかも世帯数や人口

立をめざすものです。」



総合病院から老人病院へ移行

健全化計画骨子には、地域の公立病院で引き続きその役割を果たしていくとありました。しかし、この部長答弁は明確に病院の性格を、総合病院から高齢者のための病院に変更すると述べています。地域住民に対しなんの説明もなくこのような変更が行われてよいはずがありません。

病院の今後注目!

地域福祉の要である公立病院の将来をしっかりと見つめて行きましょう。

体育館がなくなる

統合された四小学校のうち広谷小学校と西小学校の体育館を壊す提案が地元にあります。体育館は広い会場が必要な敬老会やバレーボールなどにはなりません。そういうことを知りながら、なんで勝手に壊すことを決めるのか地元は怒り心頭の状態です。特に広谷小学校はもともと統合の対象でなかったのに、たまたま、たばこの跡地が元町で広谷小学校区であったためあおりを受けたものです。広谷学区では「要望もしていないのになんで理想の学校をなくすのか」と今でも不満がくすぶっています。なぜ府中市は地元の気持ちを大事にして行政を進めないのだろうか。市長はもっと地元に出向いて地元の皆さんの思いを聞くべきです。【解説】理想の学校とは1学年2クラス、1クラスの人数が20数名で先生に大変よくみてもらえるという保護者の声です。